



【上】羽田 RWY05 を離陸し、赤く染まった積乱雲に迫って旋回する B.767。機体白も一瞬赤く染まっています。こうした雲の出現は本当に短時間です。急いで船を動かしました。これは 8 月 11 日の JAAP「羽田夕刻船上撮影会」における、D800E + 500mm による撮影ですが、次回は秋らしい澄んだ夕陽と赤い雲を期待したいところです。

加えて、ある程度の画像補正技術があると、救える画像が大幅に増えるはず。撮影技術と並行して、その追求もしてみてください。

【下】前回の羽田夕刻船上撮影会では南風も北風もありました。城南島をかすめ RWY22 にアプローチする B.737 を、進入灯間近に船を止め、D7100 + 500mm で捉えました。城南島海浜公園は、陸上では機体に最接近できる場所ですが、こうした真正面は高く遠くてやはり難しい。この時、西の方には強いエコーもある曇りで、実際小雨もパラつきましたが、空には少し雲のほころびがあり、到着機はわずかに光を受けていたのを頼りに、仰ぎ度を抑え、実効 750mm での勝負をしてみました。



# JAAP 撮影会のご案内

## 2013-2

Photography by Hiroshi Seo

【上】この日の日没は 1836 時。これは空港内の灯火が目立ってきた 1849 時の撮影です。ここから急速に暗くなっていきます。終盤は頼る光は第 2 ターミナルが発する光のみとなり、この後、揺れる船上で競ってスロー・シャッター大会という様相になりました。1/30 などで灯火がきれいに流れているにもかかわらず、離陸機がピシッと止まると、してやったりです。これは D800E + 500mm で 1/100 ですが、300mm f/2.8 クラスのレンズがあると、かなり心強いはず。

【左】羽田船上撮影の大きなプロフィットは、富士山が背景に入ることでしょう。これは空気が乾いて視程がよい冬が最適です。「羽田秋夕景船上撮影会」では、雲がなければ、赤い空にシルエットとなる富士山が期待出来るかもしれませんが、冬の夜明け前から撮影を開始する「羽田冬早朝撮影会」では、その後半にこうしたシーンが期待できそうです。

今回の撮影会は、いずれも予備日を設定していませんが、天候等により開催不能の場合は、それぞれの場所と内容で、来年 1 月もしくは 2 月に再設定する予定です。

JAAP では、毎年継続して内容の濃い写真展を行っていくために、飛行機写真愛好者のみなさんの写欲に応える撮影会等を、夏以降もいろいろ計画しています。2013 年度後半の計画を発表します。

### SKY GRAFFITI 2013

今年の写真展「SKY GRAFFITI 2013」を、10 月 4 日から東京六本木の富士フィルムスクエアで行います。JAAP 会員および「合同審査会」をくぐり抜けてきた応募優秀作品を展示します。ぜひご覧下さい。

いわゆる飛行機写真を集中的に見せ合う場や機会は、グレードの高いものとなると、なかなかありません。その上で同好の士同士が話し合い、刺激し合うと、大きな影響力が生まれます。そこに期待しつつ、写真展会期中の土曜日夜（10 月 5 日）、応募者を中心にスライドショーを交えた懇親会を計画しています。参加ご希望の方はお早めに、airworks@mua.biglobe.ne.jp（JAAP 会長）までご連絡下さい。

### 羽田秋夕刻船上撮影会

8 月 11 日（日）に「合同審査会」参加者ほかの皆さんと、羽田沖で船上撮影会を行いました。午前部と、夕刻から日没後のダブルヘッダーでした。特に夕刻からの部は、ヘイズ強く曇りがちな中、終盤に大変盛り上がりしました。低層の暗い雲の隙間から赤く照る積乱雲が顔を出し、そこへ RWY05 離陸機がからみそうだったことや、第 2 ターミナルの灯火を背景に、揺れる船上でいかにスローシャッターを切るか、ということで熱中したわけです。

難しいけれども大変面白い、その経験をふまえ、「SKY GRAFFITI 2013」東京展開催中の日曜日（10 月 6 日）にも、「羽田秋夕刻船上撮影会」を行います。この日、日没は 1718 時ですから、1500 時には船を出します。赤く染まる雲や沈みゆく太陽を背景にしつつ、刻々撮影条件が厳しくなるなか、最後はターミナルが発する光を頼りに日没 30 分後頃まで撮って、1900 時には帰港、という時程で考えています。

募集人数は 9 人。最小催行人員は 7 人。会費は 15,000 円



[上] 日の出の太陽を背後に羽田 RWY34R を離陸する B.767。京浜島から、D4, 500mm+TC20 (1000mm) により撮影。レンズが長ければ長いほど太陽は大きく写ります。強烈な発光体ですから、少し雲がかかっていた方が光量が抑えられ、それらしく写りますし、ダイレクトヒットする機体への影響も小さくなります。しかし、比較的自由的なポジショニングができる船上撮影では、これほどの長玉は必要ないでしょう。北風であれば、狙い目として、さらに離陸機の多い D 滑走路付近へも行けます。南風であれば C 滑走路の離陸機や B 滑走路の着陸機を狙えます。

[下] 同様に京浜島です。房総半島の日の出頃の雲は、非常に局地的なもので、天気予報にかかわらず、その時その現場に行かなくては状況が分かりません。だから面白くもあり、撮影者をひたすらにさせるものがあります。これは年の暮れ 12 月 28 日に、D4 + 800mm を使用して撮影した、0700 頃に遅れて離陸する BA の B.777。長距離便で重く、大井埠頭の奥の方で北北東へと旋回します。続いて AA の B.777 も離陸します。



とします。

参加ご希望の方は、[airworks@mua.biglobe.ne.jp](mailto:airworks@mua.biglobe.ne.jp) (JAAP 会長) まで「羽田秋夕刻船上撮影会・参加希望」としてご連絡下さい。折り返し詳しいご案内をお送りします。

#### 羽田冬早朝船上撮影会

夕刻があるなら日の出もあり、のはずです。光自体が劇的要素を持てば、光が支配する写真というものも、必然ドラマチックになります。羽田の国内線離陸機は 0600 時すぎから動きだします。冬は、夜明け前から動いています。

12 月 8 日 (日)、暗い時刻に撮影現場の海上に到着し、白み始めた空を背景に離陸機を撮る、撮り続けるうちに房総の向こうから太陽が上がる、というシビアかつ挑戦しがいのある、上級者向けの船上撮影会を行います。師走の忙しい季節で、非常に寒いですが、関東地方は晴れの日が多く、この時期にしかない光を求めたいと思います。

船宿集合時刻は 0500 時。公共交通機関の利用が難しい時刻ですが、日曜日であれば自家用車等の駐車も可能でしょう。帰港は 1100 時を予定しています。

募集人数は 20 人。最小催行人員は



[上] 12 年 3 月に行った JAAP 関空船上撮影会・午後の部での一例です。日没 1 時間ほど前、RWY24L にアプローチするタイ航空の A330。背景の雲の染まり具合を逃さぬよう、D35 + 500mm での撮影です。沈みゆく太陽にからむ機影も、超望遠系・ワイド系ともに何コマが得られました。関空は陸から離れた人工島です。展望ホール「Sky View」以外に撮れそうな場所はなかなか見つかりません。船から撮ると、撮影範囲が広がります。

[下] 11 年 12 月に行った関空船上撮影会・午前部の部のベトナム航空の A330。雲の多い日でしたが、この日の早朝は雲のブルーホールから差し込む光が非常にドラマチックでした。これは光が安定的となった 1030 時頃。やはり雲は多いですが、運良く空港と機影には光が回っています。D35 + 70-200mm (200mm) での撮影ですが、画像補正ではこの雲をかなり強調し、機体の銀塗装、青い尾翼、ターミナルの屋根、そして海面が、どことなく融和しつつも主張もしている、といった感じを出そうとしています。



15 人。会費は 15,000 円の予定です。

参加ご希望の方は、「羽田冬早朝船上撮影会・参加希望」として、[airworks@mua.biglobe.ne.jp](mailto:airworks@mua.biglobe.ne.jp) (JAAP 会長) へご連絡下さい。

#### 関空船上撮影会

JAAP 写真展「SKY GRAFFITI 2013」大阪展を 12 月 20 日～26 日に開催予定です。その会期中の日曜日(12 月 22 日)、関空における船上撮影会を行います。

泉佐野を夜明け感のある早朝 0700 時に出港し、1300 時頃までを前半とし、一旦漁港に戻り長めの昼食タイム。1600 時頃から再出港し、日没後まで後半の撮影をする、撮影条件が変化する中身の濃い撮影会です。

募集人数は 15 人。最小催行人員は 10 人。会費は 15,000 円とします。

参加ご希望の方は、[airworks@mua.biglobe.ne.jp](mailto:airworks@mua.biglobe.ne.jp) (JAAP 会長) まで「関空船上撮影会・参加希望」としてご予約下さい。折り返し詳しいご案内をお送りします。

これらの他、冬の成田航空科学博物館屋上撮影会ほかのイベントを計画します。時折、日本航空写真家協会の HP、<http://jaap-net.jp/> をチェックしてみてください。